

H24 年度 第 2 回幡多地域アクションプランフォローアップ会議の概要

日時：平成 25 年 2 月 6 日（水）14:00～16:30

場所：幡多クリーンセンター 2 階会議室

1 議事等

(1) 地域アクションプランについて

1) 幡多地域アクションプランの進捗状況等について

- ・地域 A P において動きのある取り組みや、成果が出た案件について説明
- ・地域の産業を担う人材育成では、6 団体が「目指せ弥太郎商人塾」に参加
- ・観光関係者が土佐旅セミナーに参加し、観光商品の開発、磨き上げ、販売促進に取り組む

2) 平成 25 年度幡多地域アクションプラン（案）について

- ・地域 A P の追加案件として、宿毛市の「NO. 2：洋ランのブランド確立・流通促進事業」と、四万十市の「NO. 28：四万十牛の商品開発・販売」の 2 案件について了承を得た結果、幡多地域 A P の件数は合計で 42 件
- ・幡多地域 A P の前書きについては、県が推進する中山間地域の活性化に向けた取り組みや、高速道路の四万十町への延伸等を記載

(2) 産業振興計画の改定等について

1) 移住促進策の抜本強化について説明

2) 地域観光の推進について説明

3) 産業人材の育成について・土佐フードビジネスクリエイター人材創出事業について説明

【意見交換】

<幡多地域アクションプランの進捗状況等について>

- ・特になし

<平成 25 年度幡多地域アクションプラン（案）について>

- ・宿毛の洋ランのプロジェクトは県内 6 業者ということだが、6 業者のうち幡多は何業者でブロック以外は何業者か。
→幡多ブロックは宿毛市の 2 業者、残り 4 業者は高知市近辺の洋ラン農家で、その 6 業者が任意組織を作る計画になっている。
- ・幡多のアクションプランに入れるということは、宿毛がリーダーシップを持つということか。
→宿毛市の洋ラン農家の方が中心となり、県の洋ラン組合の若手メンバーと一緒に販売促進を計画しているもので、各農家で生産したランを宿毛市に集めて、パッケージ化をして販売していく内容。また、集出荷のための施設を宿毛市に建設を予定しており、新たな雇用が発生するというので、宿毛市にも了解をいただき、今回、宿毛市のアクションプランとして追加の提案をさせていただいた。

<産業振興計画の改定等について>

- ・ 幡多博について、担当者の報告から今までの経過を聞くと、7月の開催に向けて精力的に取り組んでいるものの、現状で実施内容が煮詰まりきっていないということで、間に合うのかという心配がある。
 - 多額の予算をかけるのだから、納得のいく十分な準備をした上で実施することが良いのではないか。
 - 博覧会が高速道路の延伸への対応として早期開催が望まれる中で、7月開催を幡多地域の総意とし、幡多地域の関係者が一体となって準備会を中心に、基本計画の策定など作業を進めているところであり、ご理解いただきたい。
- ・ 実施内容がなかなか固まらなると聞いているが。
 - ご心配の進捗については、第4回の準備会で基本計画を固め、2月20日頃には実行委員会で承認をいただく見通し。
 - それから、各イベント等の準備作業に取り掛かるべく、専門家の意見等も取り入れながら実施内容をまとめ、3月末頃には実行委員会において実施計画の承認をいただけるよう精力的に作業を進めている状況。
- ・ 補助金当初予算が6,200万だが、このうち幡多に5,000万ということか。
 - 補助金予算要求額は、資料上従来の広域事業の1,200万に、地域博覧会支援5,000万を加えた6,200万としているが、現時点では地域博覧会支援を増額し、6,620万を要求している。
- ・ 幡多広域協議会には、県職員の派遣など相当力を入れているが、田村代表理事から今年の取り組み等について何かないか。
 - 来年度事業は、幡多博と教育旅行の誘致が中心になると思う。幡多博は、事務局として準備作業を進めているが、教育旅行は、JTBの専門家を3月から出向いただく予定であり、震災による津波予想など風当たりは強い状況だが、塾や大学のサークルなど対象も拡大しながら、営業誘致に力を入れて行こうと考えている。
- ・ 土佐FBCは四万十市でも開いていただいているが、この予算は文科省の予算か。
 - 平成20年度から24年度に関しては1年間当たり5,000万円を文科省からいただいていた。幡多教室においてもその予算によって開催させていただいた。平成25年度以降は文科省からの予算がなくなる。今後も継続していく上での予算をどうするか議論をし、大学としては1,000万から1,500万ぐらい、高知県にも同額ぐらい、その他銀行、JA、市町村振興協会等にも申請しようと考えている。協力頂いた予算で25年度以降も続けていく予定。土佐FBCの幡多教室の方も25年度以降も続けていく計画を立てている。
- ・ 国の施策の「みどりの雇用」では、8カ月と1年間通してではないため、木材単価も含めて厳しいなかで事業体も苦労しながらやっているが、1年に足りない期間を県の方で助成し1年を通じた支援をお願いしたい。
 - 以前、県の方でも担い手育成ということで事業を実施していたが、国の方の「みどりの雇用」という非常に手厚い支援が行われており、3年研修では、担い手とのマッチングが進みだしている状況。
 - 県としては、以前から事業の中で支援していくということで間伐材を搬出すれば、

1 立方あたり 2~3 千円、また作業道を担い手の方がやっていただければ、国の補助に上乘せし補助する仕組みで「森の工場」での支援を続けている。

それ以外の人件費補助として 1 年に足りない期間の支援については、ここでは即答はできないが、要望意見については「部」の方に伝えたい。

- ・ I ターン、U ターンの方に対しての策はないのか。

→ I ターン、U ターンで特に施策を違えてるということはない。

ただ、U ターンの方等については商工労働部の方で仕事の斡旋等もしている。

- ・ 県の来年度の予算編成で何か移住関係で大きな目玉的なものがあるか。

→ 来年度予算の大きな違いは、市町村と県それから民間の方で一緒にやっていこうということで、市町村の方が移住支援策として専門相談員の配置とか、お試し滞在住宅の整備等に活用していただける移住促進事業の補助金というのがある。今年度はその予算がクライנגルテンを除くと約 2 千万だったものが、補助金の予算要求額としては 1 億円を超える予算要求をしている。これは、事前に市町村に要望調査を行い、市町村が希望する事業については、すべて補助金という形で支援できるよう予算要求をしているところ。

あと大きなものとしては、今年度遅咲きのヒマワリに合わせて首都圏でテレビとか CM 放送をさせていただいた。来年度も移住はもちろんのこと、移住に至らない場合でも観光や高知県の物産を買ってもらおうということも含めたコンセプトコピーを作成して高知県を PR していきたいと考えている。

●お問い合わせ先

高知県産業振興推進部計画推進課（地域担当）

電 話 088-823-9334

FAX 088-823-9255

メール 120801@ken.pref.kochi.lg.jp